



ロータリー：  
変化をもたらす

## 宇都宮ロータリークラブ会報

R1テーマ「ロータリー：変化をもたらす」

宇都宮ロータリーテーマ「一歩前に進みましょう」

第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」

～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～

2017～2018年度RI会員イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英

第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟

例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12

事務所 宇都宮市江野町1-12 樹木実業ビル2階 TEL 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plaza.or.jp FAX 028-666-0333

(2017)平成29年9月12日 No. 3213回 2017～2018年度(第7回会報)

会員数104名 出席者数60名 出席率69%

### ビジター紹介（親睦活動委員会 金子副委員長）

故館野弘一会員 ご令嬢 館野 ひとみ様

### 会長挨拶（印出井敏英会長）



本日は皆様にご報告がございます。ちょっと悲しいご報告ですが、当クラブの会員の前田正典様のお母様、愛子様が9月8日お亡くなりになりました。95歳ということだそうです。お通夜は9月13日水曜日午後7時から、葬儀は9月14日木曜日午後1時よりさがみ典礼宇都宮御苑で行われますので、皆様にご報告をさせていただきます。よろしく願いいたします。以上でございます。

### 館野会員のご令嬢挨拶

館野ひとみ様



皆様、こんにちは。私は館野弘一の長女で館野ひとみと申します。先日は亡き父、弘一に関しましてはご多忙中にも関わらずご丁寧なご奉仕をたまわりましてありがとうございます。おかげさまで通夜葬儀告別式を無事に済ませることができました。

父は生命力の強い人で、30年前胃がんになりましたが早期発見で命を取り留め、その後大きな病気をせず、85歳まで元気に生活してまいりました。そんな元気な父でしたが、1年前から肺気腫になり何度か肺炎を起こし入院しましたが回復し元気に退院してまいりました。今回も8月中旬肺炎になり入院しましたが、私達家族も必ず元気になって帰って来てくれるものと思っていました。しかし、8月13日の朝、急変して帰らぬ人となってしまいました。私達家族は、突然のことで未だに心の整理がつかず、今更ながら父に気づかされ、喪失感でいっぱいですが、皆様方の温かい励ましをいただき少しずつではありますが、なんとか頑張っております。

ロータリークラブの皆様には長年にわたり、ご親交賜りましたことを心より感謝申し上げます。父はロータリー会員であることを長年生き甲斐にして生きておりました。ロータリークラブの皆様の素晴らしいお仲間と一緒に時を過ごして参りましたこと

は、父の何よりの宝となったことと思います。国際交流会でサンラフェールの国際交流委員長として行かせていただいたり、私の妹も交換留学生として留学させていただいたり、また、オーストラリアの留学生を我が家に受け入れるチャンスをくださったり、父弘一のみならず私達家族も頼もしい経験をさせていただき機会を与えていただきました。ロータリーを通じて、沢山の貴重な経験をさせていただき素晴らしい家族の思い出を作らせていただきましたことを、心より感謝申し上げます。

私達家族もこの思い出を大切に、家族皆で心合わせて助け合って生きていこうと思っています。どうぞ皆様も変わらぬご指導ご厚情を賜りますようよろしくお願い致します。

ロータリークラブの皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

長年に渡り父を支えていただき、本当に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 皆出席者発表

## 報告事項



### 幹事報告 飯村幹事

幹事の飯村です。来週ガバナー補佐訪問例会となりまして、ちょっと変則的な形となります。通常クラブ協議会を開催して行うのですが、今年度の補佐訪問は、特別そういった計らいはしないということで12時半に理事会メンバーはお集りいただいて、ガバナー補佐と懇談をしていただきます。後程ファックスでご連絡申し上げますが、来週理事会構成メンバーは11時半集合となります。ガバナー補佐は通常の卓話と同じような形で卓話をしていただけるということです。最後に今年のガバナーの目標であります、会員の増強ということで、地区の会員の増強委員長も一言ご挨拶をとということですので連絡を申し上げます。

それと、来週の例会でもう一つ重要な点がありまして、先週の幹事報告でも申し上げました通り、細則の変更を例会において行いたいと思います。総会でなければいけないのかと勘違いしており先に総会の開催のご案内を致しましたが、訂正をいたしまして、例会の中で皆様のご賛同をいただく形となります。今日のレターボックスに前回の細則改正案の誤字脱字を直したものを入れた・・・つもりだったのですが、まだ誤字脱字がありました。大変申し訳ありません。来週の上程のときにはきちんと訂正したものを出しますのでお気づきの点がありましたら来週までに私まで言っていただければと思います。細則の中で、ここはおかしいとご指摘を受けたところもありました。来週の例会前に理事会構成メンバーが集まりますので、その場でもう一度、その中の細々した言い回し等の変更を少しさせていただいての例会での上程となります。皆さんたくさんご出席いただきましてのクラブの細則についてのご判断を賜りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

金成委員長より  
ご奉仕発表  
プログラム紹介  
松本委員長より

皆様こんにちは。本日の卓話ですが、本日は会員卓話となります。  
小島克之会員となります。

プロフィール

神奈川県生まれの東京都出身。

プルデンシャル生命保険株式会社宇都宮支社のコンサルタントプランナー。

信託銀行、ゴルフ場、会計事務所を経て、現在のプルデンシャル生命へ。

多種の職務経験を経て得られた仕事に対するスタンスや、現在どのような思いや使命感を持って仕事に励んでいるかなど、小島克之会員がどのような人間なのかをお伝えできればとのこと。

演題『私の人生と仕事』

小島克之会員より



皆様、こんにちは。高いところから失礼致します。先ほど松本委員長からご紹介いただきました、小島克之でございます。

タイトルがすごく大袈裟な『私の人生と仕事』ということで申し上げさせていただきましたのは、卓話をしなさいというご指導をいただいた時になにを話そうかと考えましたところ、一番ざっくりとどんなお話をして含まれるだろうというタイトルにさせていただきましたので、今日はちょっとそんな細かいお話ではありませんが、少しでも私のことを皆様に知って頂けたらいいなと思ってお時間を頂戴しました。どうぞよろしくお願い致します。

本当に、何か大先輩のいらっしゃる前でお役に立つ話ができるわけではございませんけれども、入会二年目になるのですが、年に一回でも一度は喋らないところは避けては通れないハードルだと思っておりますので、本日は30分間汗をかきかき頑張りたいと思います。ちなみに、私、なんとなくお気づきかもしれませんがよく小学校の子供達からは数年前・・・2、3年前から言われるようになった、杉ちゃん似ていると言われるようになりました。声だったり、顔だったり似ていると小学生から言われるので多分そうなのだと思います。杉ちゃんの声はやんわりしているので、眠気を誘う声と言われていました。なので、今日はおいしいカレーをいただいた後の30分弱ですので是非睡眠タイムをしていただいても逆にありがたいなと思います。

今日の流れになりますが、3つの構成で考えております。1つは、私が生まれた年のこと。それを知っていただくことで、私が何歳くらいでどれくらいの年次の人間かと言うのをわかっていただいくということ。2つ目は、これまでの職歴を通しての人生の歩みをご報告させていただきたいと思います。3つ目が今の仕事について、思いを持ってやらせていただいている所を語らせていただければと思います。よろしくお願い致します。

まずお手元に、なにもレジュメがないというのも寂しいので無理矢理 Wikipedia を配らせていただきました。これは1970年のものです。お気づきだと思いますが1970年は何の年かと言いますと、私が生まれた年です。2017年が今年なので教えや

すいすいですね。今年47歳になりました。1970年どんなことがあったかと紐解いてみますと、なんとなく皆様方そのころおいくつでこの頃小島が生まれたんだと思っていただければ嬉しいです。まず、出来事として、1月1日早川電機がシャープに社名変更なんてこともありますが、この頃にシャープになったんだなとちょっと感慨深くもありました。下に行きますとソニーさんが10万円を切る電卓発表とありますね。電卓って昔10万円もしたんだなとすごくびっくりしました。今ではパソコンですら10万円しない時代が47年経てやってきたということでしょうか。めくっていただきまして大きなイベントとして3月14日に万博ですね。大阪万博開幕ということで、よく岡本太郎さんのモニュメントが出てくると、僕が生まれた年なんだなと感慨深く思います。その下にいきますと、これは社会的現象というかできごとで、明日のジョー力石徹の葬儀が行われたということで、少し保険めいてるので開けさせていただきましたけれどもこんなイベントが1970年にあったんですね。それから大きな社会的事件で、よど号ハイジャック、これも1970年なんですね。それからまた下にいきますとアメリカではアポロ13号の打ち上げがありまして、爆発事故がありました。これはアポロ13という映画にもなったものではないでしょうか。めくっていただきまして、僕は野球を中学高校とずっとやってきましたが、8月のところに『田淵幸一が左こめかみに死球を受け耳から血を流しながら昏倒し救急車で搬送される出来事があった。後遺症で難聴になったため、このことがきっかけで打者は耳当てつきヘルメットの着用が義務付けられる。』ということで、その前は確かに耳当てのないヘルメットのVTRなどがでてくるなど、ちなみに今の学童野球は両耳がついていないとだめだとか言われるようになっていきます。

11月にはこれまたすごい事件、三島由紀夫さんが割腹自殺をされたというのもまた1970年ということで、激動の、不安定な時代で色々なことが起こったのだと感じます。そのときに私が生まれたわけですが、芸能文化のところをみていただきまして、どんなものが流行っていたか。映画で言えばガメラ、トラトラトラ、音楽で言えばドリフターズのズンドコ節、和田アキ子さんの笑って許してなど、なんとなく思い出すような音楽が始まりました。それからビートルズのlet it beこれも1970年ということでした。

そんな1970年ということですが、私の生まれた年に同じように生まれた有名人がいましたのでピックアップしてみました。スポーツ界で言いますと、ボクシングの鬼塚達也さん、世界チャンピオン。それからオリンピックメダリストの池谷幸男さん、この間引退しました伊達公子さん、野球からは谷繁さんなどがいらっしゃいます。アイドルでは、中山美穂さん、光GENJIの諸星君、上島くんなどですね。わたしと同年ということで、中々見た目が違うので同年というかんじはありませんが、1970年生まれだそうです。結構びっくりしたのがお笑い芸人の方の1970年生まれが多くて、ウド鈴木さん、千原せいじさん、原田泰造さん、宮さん、上田晋也さん、いとうあさこさん、岡村隆史さん、ふじもんさんとか結構活躍されている方が多いのでこの年はスポーツはそうでもないですが、お笑いの当たり年ではないでしょうか。ちなみにわたしも杉ちゃんに似ているということです。

細かいところで言いますと私は8月23日生まれです。同じ日に有名人が一人お生まれになってました。日本人ではありませんがアメリカ人で、リバー・フェニックスさんという映画俳優さん、スタンドバイミーという映画に主役で出演しておりました。

この方今どうなっていらっしゃるかといいますと、実はもう亡くなってしまっておりまして、死因は23歳ころとなりますが薬物中毒ということで、同じ生まれで、彼は亡くなって僕は生きている、生年月日占いなどはどうなんだろうと思ったりします。おかげさまで僕は生きていて良かったなと思います。占い・・・ということで、生年月日や血液型診断というものがありますので、ちょっと私の血液型を紹介したいと思います。私は銀行と会計事務所に努めておりましたので、お堅いイメージでA型とよくいわれます。実はB型であります。B型ってどういう性格かと言いますと一般的な取り扱い説明書になります。B型ってちょっと申し上げたいと思います。優柔不断・完璧主義者・変なところだけ几帳面・基本親しい人の前ではだらだら・親しくない人の前では終止よそ行きモード・沢山我慢、結構無理します。そのストレスを持ち帰り、親しい人にだけぶちまけます。涙もろい・めっちゃ泣く・何かに取り組むまでが遅い・一度取り組んだらやる、やる、やる。責任感強い。本当は怠けたい、むちゃくちゃ怠けたい。と、こんなところですが、本当のところは実は自分でもよくわかりません。個別にこれから皆様にお付き合いいただく中で小島という人間をご判断いただけたらと思っております。よろしくお願い致します。

次に、小島のヒストリーに入らせていただきたいと思います。松本さんからご紹介いただきましたけれども、私は沢山仕事をしてきて現在4つ目なんです。実は仕事の前にも色々転々としている人生でございまして、生まれはサラリーマン技術者で神奈川県出身の父と、戦争で父親をなくした長野県出身の母親との間に、神奈川県磯子市で生まれました。物心ついたある日、父親にこう言われました。『本当はお前の名字は小島じゃないんだよ。』これってどういうこと？もしかして？DNA鑑定か！？などと思いましたが、実はそうではなくて、当時戦争に行かされるのが子供が一人の方は行かなくて済むなどがあったのでしょうか？私の祖父母が小島ではなく熊沢だったとのことで、熊沢から小島という姓に変えて戦争に行かずに済んだそうで、小島となりました。それからもう一つご先祖様ということで、もっともっと遡りますが、これも父から聞いた話ではありますが、私の遠い先祖は楠木正成さんであるということです。本当にそうなのかと思いましたがお墓の家紋を見ますと、確かに楠木正成さんの家紋でした。今私がつけているネクタイピンもその菊の紋章の下が川が流れるもので、これがお墓の家紋になったのでもしかしたらそうなのかなと思います。私は神奈川県に生まれその後2歳ですぐに北九州市に引っ越しました。さらに7歳のときに父の仕事の関係でノルウェーに行くことになりました。ノルウェーに行く前に東京から出発する必要がある間いことで3ヶ月だけ、新宿に転校いたしました。ノルウェーで2年間を過ごし、その後東京に戻ってきまして、杉並に2年間住み、その後、多摩によりやく自宅を構えて引っ越しました。結局小学校は4つ通いまして、中学は2つ通いました。お陰で友達作りが得意になったのですが、逆に大親友というひとがいなくてちょっと寂しい思いをしております。今は宇都宮に20年いますので、これからそういうお友達をどんどん作って行きたいなと思っております。高校は中学から野球をやっていたので、とにかくながくやりたい、大学でもその先でもやりたい、プロへの道もあこがれてはいましたので、父親には申し訳ないのですが付属校を受けまくりまして早稲田・慶応など受けました。ひとつだけ受かった慶応義塾に決まりまして、野球をできる毎日を過ごしていました。ところがプロ野球選手になるには肩を壊したりしてしまい挫折してしまいました。これが後の人生でこのプロ野球を目指さなかった

ことがしこりとなってまた再度プロを目指すという道に導いていくこととなります。大学を出まして社会人になりました。そこで4つの仕事を経験しました。まずは信託銀行に務めました。信託銀行は当時、7行あったのですが現在は統合で3行になりました。当時三菱信託銀行という銀行の吉祥寺支店に配属になり、ここで妻と出会いまして、最初はお付き合いするようではなかったのですが、出会って3年後くらいに付き合い始め、結婚にいたりしました。その後は、結婚したのは29歳なのですが、30歳になった頃ふと、ご存知の通り、プロになりたい夢を、野球は無理だけど何かということですと好きだったゴルフで目指しました。ゴルフの研修生になろうと思い、栃木県で言うと、風の大地ですかね、沖田圭介くんのようになりたいとおもいました。ただ、年齢は既に30歳ということでした。ちなみにこの頃プロゴルファーとして活躍していた賞金王は、2000年が片山晋呉さん、2位が谷口徹さんでした。賞金額が1億7千万、2001年が伊沢利光さん、二位が片山晋呉さん。賞金が2億1千7百万。凄い世界でした。そんなお金の目がくらんだこともあり、プロを目指したいと思いました。ただ、後で知ったことですが、そうやって食べていけるのはトップの方だけでした。ちなみにランキング100位の選手がいくらくらいの賞金を稼いだのかというところをちょっと後になって調べて現実を知ったのですが、いくらくらいになると思えますか？これがですね、賞金600万なんですね。ちなみに私が銀行を辞める29歳の頃は額面750万くらいありがたいことに頂戴してました。なので、プロになっても年収って下がってしまうんだなと言うことを本当に知っていたら、チャレンジしていたかは分からないところです。少し軽々しく挑戦したのかなとは思っています。研修生の時の給料は月12~13万程度、手取りで10万円くらいでした。ボーナスもないので年収150万くらいで、750万の年収が150万に激減ということで、銀行員の方がよかったなと思うのですが、私の妻は良くついてきてくれたなと思います。余談ですが、プロゴルファーも年金が出るそうです。通常の国民年金が年間78万円、月6万円ちょっとですが、会社員の厚生年金は年間200万円位出ますでしょうか。プロゴルファー公的年金上乘せで、22,500円出るそうです。月1,875円。これも事実。アメリカはすごくて、丸山茂樹さんは活躍して60歳から総額20億くらいもらえることになっているという噂で、タイガーウッズは毎月5億円なんて噂もあるそうです。ちなみにちょっと銀行を辞めたときのお話なのですが、普通中々銀行を辞めてプロゴルファーになるなんて話を妻は普通許してくれないと思うのですが、なぜか妻は許してくれました。本当に感謝しています。そのときにやはり悩んだのですが、最後の最後に妻が背中を押してくれましてこう言ってくれました。『あなたは銀行に居たらどっちにしろ結構偉くなるんでしょ』そう言われたら、もちろん銀行にいたら偉くなるよと話したのですが、『もう偉くなるんだったらいいんじゃないの。違う道でまた上を目指したら。』と言うことで背中を押してもらいました。本当に感謝しています。ありがとうございます。すみません、身内の話で恐縮ですが・・・プロゴルファーへの道は本当に厳しくて、プロゴルファーになれるのが最短で2年半とされています。1年目はゴルフ場内で競争して、2年目から研修会に出れると。これは風の大地でよくお分かりだと思います。3年目になって研修会で良い成績を残すとプロにいけると、2年半の猶予をいただいてチャレンジをしましたが、1年半の研修会の途中でOB二発で撃沈し、ゴルフを諦めることとなりました。では次に、何の仕事をしようかと夢破れたのですが、銀行の経験を活かしな

がら真面目にコツコツ仕事をしようと言うことで、妻の実家にある宇都宮にやってきました。2001年のことです。そこで、会計事務所に5年間務め、その間に2人の息子が生まれるという穏やかな日々を過ごしていました。そんな中、ふとあるときに、プルデンシャルのスカウト所長さんから声をかけていただいたのが今の仕事への転職のきっかけでした。保険の話となると、保険の勧誘というかんじで非常に身構えるものですが、その方は保険に入ってくださいとか掛け金はいくらですとかそういった話ではなかったのが非常に印象的で素晴らしい世界だなと思ったのがきっかけでした。ちなみにその方がおっしゃったのが、『保険は入り口、入るときのことよりも出口のことを考えてください。』と言われました。誰のために何のために入るのかということだったんですね。私は妻が私を支えてくれていましたし、子供が2人おりましたので、結構考えさせられました。そうはいつでも中々イメージはできないですよ。例えば保険で自分に何かあったときに誰かにお金を残そうと思っても中々イメージ出来なと思います。イメージ出来ないことをイメージしろというのは難しいと思うのですが、ちょっと皆さん、ここにレモンがあると想像していただきたいのですが、僕がレモンを握るとしゅっとレモンの汁が溢れ出る、そんな情景を思い浮かべてください。それを僕が食べます。すっぱいです。どうでしょう、皆様もなんとなく酸っぱさがイメージできたでしょうか？僕はトークが下手なので出来れば嬉しいです。どういうことかということ、レモンを絞って何となく反射で酸っぱいなと思うのは、過去に経験があるからで、保険のことって自分が死ぬのはいつか分からないしだいぶ先だし経験もしてないし・・・ということで、ではどういう風に伝えればいいのかとなります。その方に言われた話がありました。それは1985年8月15日の出来事の話でした。日航機墜落事故ですね。このときに色々ネットにも出ているのですが、最後の瞬間に飛行機の中でメモを書いた方がいらっしゃるんですね。これをお話をいただいたときに、擬似的に自分がそうなったら最後の瞬間何を思うだろうと思い、ああ、ちゃんとしなきゃと思ったのを覚えています。少し今読みますと、『どうか仲良くがんばって、ママを助けてください。パパは本当に残念だ。きっと助かるまい。原因はわからない。原文飛びます。さようなら。子供達のことをよろしく頼む。本当に今迄は幸せな人生だったと感謝している』と書いてあるメモが直筆でありました。こういうのを見ますと、本当に保険はこういう出口のことを考えて入らないといけないんだなと思わされてこの仕事に進んだ次第です。時間が押してきましたので最後少し省略しながらお話したいと思います。

保険の仕事というとなかなかつらい仕事ですよと皆さん言われるんですが、なぜその仕事を選んでやっているのかということをお話させていただきたいと思えます。

実は生命保険、日本は保険大国と言われてまして、世帯加入率は約9割と言われていきます。ただ、そうにも関わらず、日本にあしなが育英会などの寄付を行う民間の支援団体があります。国からの助成はなく全て寄付金で、病気や災害で親をなくした子供達を支えるという活動をしている団体がありますが、そもそもどうしてそういう組織が存在しているのかということなんです。結局のところ、生命保険の加入の仕方が中々安心感や十分なものになってないという統計がありまして、自分の保険が大丈夫なのかという調べに対して大丈夫、多分大丈夫と答えてる人が約3割と、不安だ、非常に不安だというのが7割もいらっしゃるんですね。統計データでこうも出ているところ

からすると、本当はもっときちっとすべきところがあるんじゃないかと思います。ちなみにあしなが育英会より高校奨学金をもらっているお子様、お母様が残されているんですかね？お母様の平均月収が13万8千円だそうです。僕の研修生時代の13万円くらいと同じですが、とてもじゃないですがやっていけないと思います。ですから、それを助けることができるのがもしかしたら保険かなと思うところで、その出口のイメージをしながら日々頑張っている次第です。実は生命保険の営業は色々な営業の仕方があるんですけども、よく好印象になるからなんて話もあれば、きちっと目的を考えて入ってくださいというお話がありますけれども、私としては、私は今信託銀行に務め、会計事務所に勤め、この仕事をしております。ゴルフはプラスαですけども。そんな中で、やはりご相続や事業継承、こういったことを専門とした保険屋になって行くことを目指しております。現在も50世帯くらいのご相談をいただいたりという中で仕事をさせていただいております。本来普通相続となると、弁護士や税理士の先生方がご専門でやられるのですが、割とことが起こってからご活躍をされることが多くて、事前の対策という意味ではなかなか専門家というのがいらっしやらない状況もあるので、そこは我々保険会社の存在意義ではないかと思います。税金や民法のことなどを勉強してお役に立てればと日々仕事をしております。

最後に、生命保険の優位性というのをひとつだけお伝えしたいと思って終わりにしたいと思います。生命保険の重要な点で他の金融商品と違うのは、生命保険は受取人を定めることができます。受取人の固有の財産という点が非常に優れている点なんです。これはどういうことかということ、万が一の際保険金が渡されるわけですが、これは相続財産ではないということが民法上のポイントで、税金上はみなし財産として税金計上となるんですが、権利上は受取人の固有の財産ということでいわゆる遺産分割から外れてくるということになります。これはどういうことかということ、例えば多く借金を抱えているご主人がお亡くなりになって奥様とお子さんが出るとします。そのときに沢山の預金も持っていたけれど沢山借金も残っていた。実は借金の方が多かった。そう言うときにこれは相続放棄しますねとなりますと、プラスの預金もなくなってしまいますが、生命保険という形に変えておきますと、相続放棄したとしても保険金の受け取りはできると、そんな魔法のような機能があります。ちょっと事例がないと中々分かりづらいとは思いますが、こんな素晴らしい機能も生命保険にはあるということでお見知り置きいただけたら嬉しく思っています。

当社プルデンシャルは創業者の坂口という人間はもう他界してますが、その人間がよく言っていた言葉があります。『生命保険は人生で最後のラブレター』。受取人の方に人生のその後を託すというラブレターの意味合いがある、私はそれを届ける仕事をしているということを誇りに思い仕事をしております。

最後になりますが、この仕事、サラリーマンでありながら完全歩合でやらせていただいております。色々な所に出かけるのも自腹で、ロータリーさんも先輩方から色々学べるので自分の為と思い参加させていただいております。費用対効果を考えるのではなく一生懸命関わって人生を実り多きものにしていきたいと思ってこれからも参加していきたいと思っておりますので、どうぞ先輩方、ご指導ご鞭撻いただけたら嬉しく思っています。今日のご静聴頂きましてありがとうございます。



## 今日の食事



- ・カツカレー
- ・ライス
- ・サラダ
- ・福神漬

9月 19日 ガバナー補佐公式訪問

会報委員 増田直樹委員

写 真渡邊 肇副委員長

: メールアドレス [u-rc01@silver.plala.or.jp](mailto:u-rc01@silver.plala.or.jp)

下記URLをクリックすると会報バックナンバーが表示されます

<http://www.u-rc.gr.jp/kaihou/web3.htm>